

^13  
2483  
7





遠 13  
2483  
7

お竹高野山下年方十何

樂音樹ハ樂をまのて枝葉舞眞美人草ハ眞美人の  
曲をまのて二葉あひ拍あを掌の如し。豈草木情あといそんや  
日本高野山中ハ異草あり。あがけを万年草といひ是をりて  
遠隔の人の生死をとりあふ。あう人の知覚するところ也昔あひ  
山足ハ容華絶代の婦人あり。名を於梅といひ恋童果  
通ト。女人堂あり情死を遂同穴の塵とあらんとと人  
あて死をとりあふ。亀霍の壽をまろとせし。その縁故を  
一條の戯曲ハ綴り。万葉草といひあせるハかの近松翁が草  
あり。今まこ是ハ傲ハハ冊子を編とつと鳴呼やと不覺と  
覺と不覺をいうんせん近松翁大海の水也せハ蚊子の  
尿あぶ

柳亭種彦誌







○ 静波島太郎景八



○ 鳴田 平藏





富樫の  
 権  
 炭左門  
 雲



五条坂の遊君  
 薄夜大夫





○ 鳴田の下  
淀平

○ 富樫止助の  
息女梅枝姫



○ 静波の  
近臣  
鳴田汲之助





○ 紀伊國  
 名神郡の百姓  
 相六が女房と  
 小室



○ 弘法大師の  
 化身高野  
 聖と相六が家よ

宿因を説  
 果を示して  
 一人の女子を  
 授けり









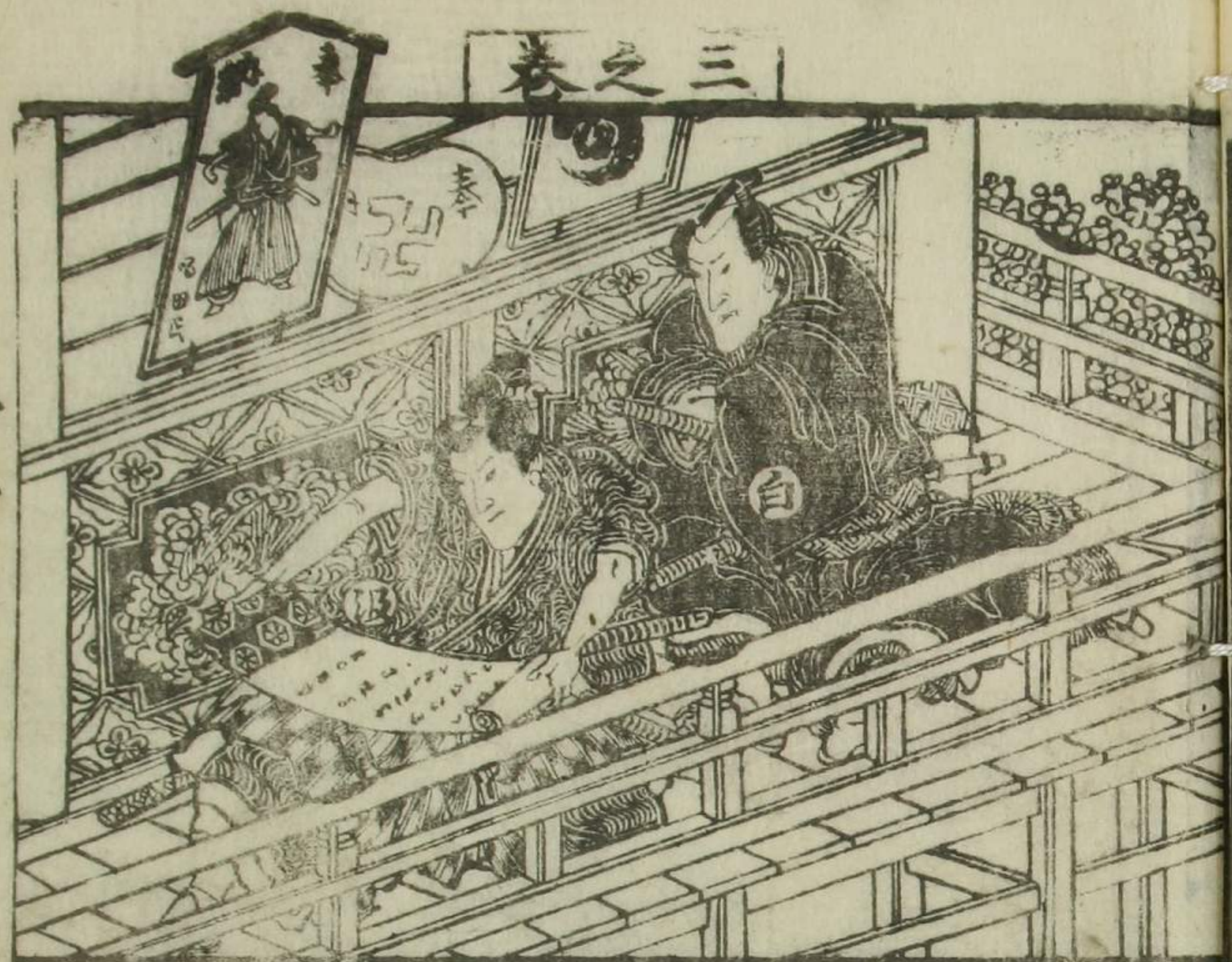












Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a commentary or a scene description, located below the illustration on the left page.

Vertical columns of handwritten Japanese text located at the top of the right page, above the main illustration.



Vertical columns of handwritten Japanese text located at the bottom of the right page, below the main illustration.



























































六之巻



この世のあはれは...  
 人の心は...  
 世のあはれは...  
 人の心は...  
 世のあはれは...  
 人の心は...

おはれ  
 さん  
 さん



この世のあはれは...  
 人の心は...  
 世のあはれは...  
 人の心は...  
 世のあはれは...  
 人の心は...

おはれ  
 さん  
 さん

おはれ  
 さん  
 さん

おはれ  
 さん  
 さん























